

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 2 月 15 日

所 属： 獣医 学部 獣医 学科

氏 名： 長 井 誠 職位： 教 授

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

学部では主として動物の感染症に関する授業・実習、大学院では動物疾病制御学の感染症学分野を担当している。獣医学は進歩を続けているが、昨シーズンは過去最大件数となる高病原性鳥インフルエンザが発生し、豚熱も豚への感染リスクとなるイノシシへの対策に苦慮しており、アフリカ豚熱やランピースキンといった海外悪性伝染病が我が国の近隣まで進出している。また伴侶動物においては感染症の発生は少ないものの、シェルターや集合施設では依然として感染症が流行している。このような状況から感染症の制御に貢献できる獣医師が求められており、それに対応すべく自ら考え、行動できる人材の育成を教育の責務として取り組んでいる。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
家畜伝染病学Ⅰ	獣医学科	必修	4	148
家畜伝染病学Ⅱ	獣医学科	必修	4	148
家禽疾病学	獣医学会	必修	4	149
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	7
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	5
卒業論文研究	獣医学科	必修	6	5

2. 教育の理念（育てたい学生像、あり方、信念）

ある時突然全く知られていなかった新しい感染症が発生したり、清浄化されて発生のなかったものが再び発生したり、感染症は今後も人類を含む動物全体の脅威になり続けるだろう。しかし過去には、人類にも健康被害を与えてきた牛結核とブルセラ症は我が国において我々の先輩獣医師によって清浄化が成し遂げられた。そこで今の学生たちには、現在大きな問題である高病原性鳥インフルエンザや豚熱などについて、撲滅・清浄化を目指して的確に取り組める人材に育ててほしいと考える。獣医師しかできない社会的に大切な役割を果たしていく、これが獣医師のあり方と考える。担当させていただく授業や実習を通して獣医師としての基礎を学んでいただくとともに、この信念に基づいた教育を展開することで社会貢献のできる獣医師を育成していきたい。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法）

私は地方公務員獣医師として家畜保健衛生所および畜産試験場に勤務する中で数多くの感染症に遭遇してきた。その経験を獣医学教育に活かしたいと考えている。自らの経験から、できるだけ多くの事例を紹介し、失敗事例も含めて獣医師としてどのように対応すればよいかを一緒に考えてもらうというアプローチを散りばめるよう心がけて授業・実習を行いたい。教科書だけを教材としては伝染病に立ち向かえる獣医師は育たないと思う。動物の中には家畜のような経済動物もあれば、ペットのような伴侶動物もあり、同じような伝染病が発生しても、その対象によって取るべき手段

は大きく異なる。清浄化を達成した伝染病においても、それぞれ異なったアプローチで清浄化が行われた。様々な伝染病を丸暗記することだけでは、獣医師として現場で伝染病に遭遇した時に状況の応じた有効な策を講じていくのは難しいと思われる。いろんなケースの中で伝染病に対応する考え方を教えるに当たり、基本的なセオリーは大切ではあるが、そればかりでなく具体的な事例をあげて理解を深めてもらうことが大切であり有用だと考える。

アクティブラーニングについての取組

- ・双方向の教育体制を構築するため、學理を利用してディスカッションを行う。
- ・毎回の授業で學理を利用した小テストを実施し、授業の理解度を把握する。

ICT の教育への活用

- ・學理を用い、その機能を最大限に活かし、授業や実習に利用する。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫(B)

ともかく実感してもらうため、授業では写真スライドをできるだけ多く活用し、実際の病性鑑定に則した材料を想定して、診断に至るまでの一連を理解して行うことができるようになることを理想としている。初めて知る疾病を覚えるのはとっつきにくいと思うので、一つのことを他のことと絡めて覚えることで理解度を高めようと努力している。

②学生の理解度の把握(B)

毎回の小テストは理解度の把握に有用であり、今後も継続する。

③学生の自学自習を促すための工夫 (C)

自学自習を行ってもらうことの難しさをこれまでずっと感じている。予習して授業を受けると理解度が増すと考えており、資料をなるべく早く學理にアップしているが、なかなか予習を促すことができていない。初めての疾病と教科書で出会うのはあまり馴染めないものかと思うが、簡単にまとめたプリントを配布してあるので、それをいかに活用してもらうか努力する必要があると考えている。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等) (B)

授業の終わりに質問をいただき、理解度を深めるのによい機会と感じた。定期試験の直前の質問が多いのが現状だが、いつでも質問をしてもらえるような授業の雰囲気は今後も作っていきたいと考える。

⑤双方向授業への工夫(B)

成績評価の一環として行っている小テストは、理解度を確認しながら授業を進めることができ、双方向授業における有用な手段と考えている。

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

過去の出題傾向を分析し、重要なところを示して授業を行っている。出題傾向は 16 年分の一覧表を作成し、授業中に提示してその対策を行っている。

5. 学生授業評価

① 授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

授業に用いている資料について要望をいただくことがよくあり、それに従って修正を重ねている。自学自習の実施については依然、低迷しているが、なかなか予習を促すことができていない。

② ①の結果はどうでしたか。

授業資料とスライドは修正を重ねた結果、よりよいものになっていると思う。予習に関しては、依然まだ努力が必要である。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

予習は、内容を簡単にまとめたプリントを授業の前にざっとでも見てもらうことを周知しようと考えている。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

これまでも行ってきたが、授業資料をできるだけ早く學理にアップして授業に活用してもらうことと小テストを行うことで復習の機会を与えることが成績向上につながる取り組みだと考えている。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

私がコーディネーターを務める教科の定期試験では全員が合格点を獲得しているので、それなりの効果があったと思っている。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

FD 研究会には基本的に毎回参加することを心がけている。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

定年退職まであと3年、悔いのないように毎回全力で努力を重ねるのみと考えている。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

なし